

新教出版社・新刊案内 2022年2月25日発売

ビリー・グラハムと 「神の下^{も と}の国家」アメリカ

福音伝道者の政治性



相川裕亮 [著]
広島大学法学部助教 あいかわ・ゆうすけ

四六判・上製・300頁・本体2,500円（税込定価2,750円）

ISBN 978-4-400-21333-8 C1016

国葬にされた、ただ一人の牧師

アイゼンハワーからオバマに至る歴代大統領と親密な関係を結び、「アメリカの牧師」として彼らの政策に有形無形の影響を及ぼしたビリー・グラハムの、主に冷戦下70年代までの思想と行動を〈福音伝道者〉という観点から解明した俊英の力作。

〈預言者〉でも〈祭司〉でもないこの独特な宗教者の類型は、いかなる意味をもつのか。

アメリカ宗教史／政治史への新たな視角

【目次より】
序章 ビリー・グラハムとアメリカ
第一章 ビリー・グラハムという人物 ——ファンダメンタリストと「福音派」
第二章 「罪」の神学と「福音伝道者」としての職務観 ——理論的背景 第一節 「罪の神学」／第二節 「福音伝道者」
第三章 冷たい戦争と魂の危機 ——「反共主義」とマッキンタイア 第一節 背景／第二節 自由と反共主義
第四章 大統領の聖所と神殿 ——「サイレント・マジョリティ」とニクソン、ピール 第一節 ニクソンとお気に入りの牧師たち／第二節 グラハムとピールの信仰の在り方／第三節 なぜ「福音伝道者」は大統領に協力したのか
第五章 「神の下 ^{も と} の国家」の再建案 ——「市民宗教」とハットフィールド 第一節 問の前提／第二節 ハットフィールドの「市民宗教」批判／第三節 グラハムはハットフィールドをどう理解していたか
結論 第一節 総論／第二節 含意と今後の課題